

# 論理的判断力を高めるための 概念的知識を活用した授業実践 —中学校社会科歴史的分野を例に—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（社会）

氏名 八木 龍一

本研究の目的は、社会の諸課題に対して概念的知識を活用させることによって、生徒が一面的で直観的なものでない、論理的な判断力を育成できるようになるのかを明らかにすることであり、生徒が文脈に沿った学びの中で主体性を発揮し、「深い学び」を実現させることで、より汎用性のある授業デザインを構築していくものであった。

結果として、生徒が概念的知識を獲得する際に、具体的知識同士の関連性や共通点を見いだすことに難しさを感じ、歴史的な見方・考え方を十分に働かせられなかった。また、学びの文脈に沿った授業をデザインすることで、学級全体で共通した知識の習得を促すことができたが、同時に「個別最適な学び」を制限していることも露呈した。

ただ、「個別最適な学び」とのバランスと汎用性のある授業デザインとなったかについては十分に検証することができなかったが、これについては今後の課題にしたい。